

【基本施策の目的】

名鉄小牧駅沿線を中心に、より多くの市民が便利で快適に暮らせる生活空間を確保するとともに、名鉄小牧駅周辺におけるまちの魅力を向上します。

【基本施策の今後の優先度】

| 判定区分 | 基本施策における課題の状況及び対応策 |
|------|--|
| 大 | <p>将来的な少子高齢化の進展が見込まれる中、本市では、20代、30代の女性が結婚・出産のタイミングで転出していくなど、生産年齢人口の減少もみられ、少子高齢化のさらなる進行が懸念される。</p> <p>そこで、本市ではコンパクト・プラス・ネットワークの考えのもと、小牧市立地適正化計画を策定し、コンパクトな都市構造を目指し、誰もが暮らしやすい生活環境の実現に向け、地域コミュニティの維持・活性化などを図るため、「就労世代なかでも若年世代」の定住促進を進めることとしている。</p> <p>このため、名鉄小牧線沿線において良好な住環境形成に向けた土地区画整理事業を進める。また、本市の中心市街地であり、まちの顔である名鉄小牧駅周辺の再整備により、まちの魅力向上を図るほか、小牧駅周辺や桃花台センター地区などの交通結節機能の強化を図ります。</p> <p>このような状況や、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、この基本施策は、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度は高いと判断した。</p> |

【指標の分析】

| 指標 | 単位 | 区分 | 基準値 | H26度 | H27度 | H28度 | H29度 | 方向性と整合性とその要因、実績の増減の要因 | 今後の見通し(予測)、今後の対応 |
|------------------|----|--------|------|------|------|------|------|---|---|
| 小牧駅周辺が便利と思う市民の割合 | % | 実績 | 32.3 | 30.1 | 29.3 | 32.4 | 30.1 | <p>指標の値は、年度により増減があり、H29年度は目指す方向性とは逆に減少した一定の変動幅で横ばいと考えられる。</p> <p>地域別の比較では、小牧駅周辺地区に居住している人の指標の実績値は、他地区に比べ高いが、前年度に比べ減少した。また、年代別の比較では、増減にばらつきがあり、傾向が見られない。</p> | <p>今後の指標値の見通しは、今後、新図書館建設、ラピオ再構築と併せて小牧駅周辺整備の取り組みを進めることにより、実績が増加することが期待できる。</p> <p>今後の対応は、市民アンケート調査などにより把握した小牧駅周辺の利用状況や整備に関する考え方などを踏まえて、関係機関との協議を行いながら、実施に向けた取り組みを進め、指標値の改善を図っていく方針である。</p> |
| | | 目指す方向性 | ↑ | | | | | | |
| 名鉄小牧線沿線居住率 | % | 実績 | 56.5 | 56.9 | 57.2 | 57.4 | 57.6 | <p>指標の値は、市全体の全世代人口は減少しているが、小牧線沿線地区の全世代人口が増加しているため、全体としては、目指す方向性のとおり増加傾向にある。</p> <p>その主な要因は、名鉄小牧線沿線で行われている土地区画整理事業の進捗によるものと考えられる。</p> <p>また、市全体の若年世代(20~40歳代)人口の減少は顕著であるが、それに比べ、小牧線沿線地区の若年世代人口の減少は少ないため、居住率は増加している。(H26:59.9%、H27:60.1%、H28:60.5%、H29:60.7%)</p> | <p>今後の指標値の見通しは、施行中の土地区画整理事業について、引き続き、事業進捗を図ることにより、さらに居住率が増加することが期待できる。</p> <p>今後の対応は、新たな住居系土地区画整理事業(組合施行)において、小牧市立地適正化計画や周辺の都市基盤整備の状況等を踏まえ、事業の導入に向けた活用事例等の紹介や小牧原樋下地区の事業化支援を行う。</p> <p>また、若年世代の人口が急速に低下すると、まちの活力や賑わいが低下することが懸念されるため、他部署が検討・実施している若年世代が住みやすい住環境の創出、定住につながる取組みと連携を図り、更なる指標値の向上を図る。</p> |
| | | 目指す方向性 | ↑ | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--------|---|------|------|------|------|--|---|
| 小牧市の景観について、好ましいと思う市民の割合 | % | 実績 | 68.9 | 62.8 | 60.2 | 59.4 | 57.0 | 指標の値は、目指す方向性とは逆に減少傾向にある。 その主な要因は、景観アンケート調査の結果において本市の景観阻害要因として上位に挙げられた小牧駅周辺や旧桃花台線（インフラ）の景観であると考えられる。 なお、減少傾向に年代・性別・地域別で偏った特性は無く、全体的に減少しているが、特に20歳代から50歳代の値全体の数値より1から4ポイント程度低い値となっている。 | 今後の指標値の見通しであるが、考えられる減少要因については早急な対応が困難であることから、減少傾向が続くと分析する。 今後については、小牧駅周辺再整備を進めるとともに、旧桃花台線の撤去については早期撤去に向け、事業主体である愛知県に引き続き働きかけを行うなど、指標の改善に向けた取り組みを行う方針である。 |
| | | 目指す方向性 |  | | | | | | |

【施策推進事業の考え方】

| | | |
|--------|---------------|---|
| 経常事業 | 削減に関する具体的な考え方 | — |
| 実施計画事業 | 資源投入の考え方 | <p>本市の中心市街地としての魅力を高め、賑わいを創出するため、小牧駅周辺につきましては、これまで、様々な取り組みを実施してきた。</p> <p>これまで事業進捗を図ってきた新図書館の建設、ラピオ（仮称）こども未来館の整備、小牧駅周辺整備について、これらを一体的に進めることで、まちづくりの相乗効果を生み、小牧駅周辺地区の活性化にもつなげていきたいと考えている。</p> <p>小牧駅周辺整備事業は、新図書館や（仮称）こども未来館と同時期に整備を実施することで、多くの来館者の利便性の向上を図るとともに、新図書館のデザインと調和した景観整備、駅西広場の南側に新たなにぎわい空間の整備を行う。また、新図書館の建設に併せて、その地下に市営駐車場を整備するとともに、ラピオ地下駐車場の精算方法を機械化することで、駐車場を利用する多くの来館者の利便性の向上を図る。このため、さらに資源投入を行う必要があると判断している。</p> <p>平成30年度は、平成29年度に策定した小牧駅前広場等整備基本構想に基づき、実施設計等を進めており、新図書館の供用開始までに小牧駅西駅前広場、小牧駅西線、歩専1号線、図書館地下駐車場などの整備を完了する必要があるため、駅西側は、平成31・32年度に本工事を実施する予定である。なお、駅東側の整備は桃花台線インフラの撤去後とする。</p> <p>したがって、平成31年度においては、これまでより事業規模を拡大し、さらに強力に事業を進めていく方針である。</p> <p>田県神社前駅前整備事業については、整備区域の南側（1期工事）は、平成28年度に整備が完了した。北側（2期工事）は、（仮称）第3老人福祉センターの建設用地に決定したため、平成30年度に施設コンセプトや導入機能の検討を行い、基本構想・基本計画の策定を行い、平成34年度の完成を予定している。</p> <p>北側（2期工事）については、福祉センター建設の事業進捗に合わせ、市及び市土地開発公社の所有地を有効活用をしながら、道路や河川などの整備を行うため、平成31年度に道路・河川予備設計、平成32年度に道路・河川の実施設計、平成33年度に用地購入及び道路・河川の工事などを行う方針である。</p> <p>桃花台センター地域拠点整備事業は、小牧市都市計画マスタープランで本市の地域拠点と位置づけ、また、小牧市立地適正化計画では居住誘導区域及び都市機能誘導区域に指定する桃花台ニュータウンにおいて、バス停の集約や既存施設の機能強化などによる交通結節点の利便性の向上を図り、日常的に暮らしやすいまちの形成を目指すものである。</p> <p>そのため、平成31、32年度については、桃花台センター地区周辺における交通結節点の利便性向上を図るため、実施設計及び整備工事を行う方針である。</p> <p>都市景観整備事業において、小牧市サイン計画に基づくサイン標識について、新図書館及び（仮称）こども未来館等のオープンに合わせ表示内容を修正し、人的確に案内・誘導するとともに景観に配慮したサインデザインの整備を図る必要がある。</p> <p>そのため、平成32年度末の新図書館のオープン時期までの平成31年度、32年度の2カ年において、ドライバー系サイン11面の張替えと1基の新設、歩行者系サイン27面の張替えを行う方針である。</p> |

| 展開方向1 | 名称 | 鉄道駅周辺の都市機能を強化します | | | | | | | 方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因 | 今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容 |
|---------------------------|-----|--|---|-----------|-----------|-----------|-----------|--|---|------------------------|
| | 目的 | ○公共交通の結節点である鉄道駅周辺において、公共交通利用者の利便性を向上します。 ○特に、名鉄小牧駅周辺においては、本市の中心市街地として魅力を高め、賑わいを創出します。 | | | | | | | | |
| | 所管課 | 都市政策課 | | | | | | | | |
| 指標 | 単位 | 区分 | 基準値 | H26度 | H27度 | H28度 | H29度 | | | |
| 名鉄小牧線の駅が利用しやすいと思う市民の割合 | % | 実績 | 42.7 | 45.7 | 43.8 | 44.1 | 46.4 | 指標の値は、全体としては、目指す方向性のとおり増加傾向にある。 その主な要因は、平成27年3月に味岡駅においてエレベーター設置等のバリアフリー工事が完了し、平成29年3月に田県神社前駅において駅前広場等の整備工事が完了したためであると考えられ、当該指標の味岡、一色、本庄小学校区の値が増加していることから裏付けられる。 | 今後の指標値の見通しであるが、名鉄小牧線沿線地区に居住している人の指標の実績値は、他地区に比べ高くなっているものの、減少傾向である地区もある。今後、小牧駅、小牧口駅の駅前広場整備などを実施することにより、公共交通利用者の利便性の向上が図られるため、当該指標値は目指す方向性のとおり増加することが期待できる。 | |
| | | 目指す方向性 |  | | | | | | | |
| 名鉄田県神社前・味岡・小牧・小牧口駅の年間乗降客数 | 人 | 実績 | 7,259,994 | 7,638,508 | 8,043,744 | 8,206,056 | 8,504,660 | 指標の値は、全体としては、目指す方向性のとおり増加傾向にある。 その主な要因は、名鉄小牧線沿線で行われている土地区画整理事業の進捗により、居住人口が増加したことによるものと考えられる。 | 今後の指標値の見通しであるが、引き続き、名鉄小牧線沿線で行われている土地区画整理事業の進捗を促すことにより、居住人口の増加が見込まれるとともに、利便性の向上が図られるため、今後とも、当該指標値は目指す方向性のとおり増加することが期待できる。 | |
| | | 目指す方向性 |  | | | | | | | |

| 展開方向2 | 名称 | | 良好な住宅地を創出します | | | | | | | |
|--------------------------------|-----|--------|---|--------|--------|--------|--------|--|---|--|
| | 目的 | | 〇名鉄小牧線沿線の市街地において、生活環境を改善するとともに良好な宅地を供給します。 | | | | | | | |
| | 所管課 | | 区画整理課 | | | | | | | |
| 指標 | 単位 | 区分 | 基準値 | H26度 | H27度 | H28度 | H29度 | 方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因 | 今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容 | |
| 土地区画整理事業の施行区域内の居住人口 | 人 | 実績 | 9,940 | 10,523 | 10,688 | 10,826 | 10,994 | 平成28年度と比較して、道路等の公共施設の整備が進み、良好な宅地を供給したことにより、順調に居住人口が増加している。 | 良好な宅地を供給するため、引続き道路等の公共施設整備を着実に進めることにより、居住人口の増加が見込まれ、今後とも、当該指標値は目指す方向性のとおり増加することが期待できる。 | |
| | | 目指す方向性 |  | | | | | | | |
| 土地区画整理事業の施行区域内の道路整備率 | % | 実績 | 75.1 | 81.6 | 83.8 | 85.4 | 86.4 | 平成28年度と比較して、物件移転が進んだことにより、順調に道路整備率が上昇している。 | 補償交渉を推進し、引続き道路等の公共施設整備を着実に進めることにより、道路整備率の上昇が見込まれ、今後とも、当該指標値は目指す方向性のとおり増加することが期待できる。 | |
| | | 目指す方向性 |  | | | | | | | |
| 展開方向3 | 名称 | | 都市景観を整えます | | | | | | | |
| | 目的 | | 〇個性を活かしつつ、親しみや緑豊かでやすらぎを感じる景観の保全・誘導を図ります。 | | | | | | | |
| | 所管課 | | 都市政策課 | | | | | | | |
| 指標 | 単位 | 区分 | 基準値 | H26度 | H27度 | H28度 | H29度 | 方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因 | 今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容 | |
| 歴史的趣や緑豊かな小牧山が見える景観に魅力を感じる市民の割合 | % | 実績 | 79.2 | 78.8 | 77.6 | 75.9 | 74.3 | 指標の値は、目指す方向性とは逆に減少傾向にある。これは、市役所旧本庁舎跡地の整備は完了したものの、石垣の発掘作業や(仮称)史跡センターの整備などまだ整備等途中のものが、一時的な景観阻害要因があることが要因の一つと考えられる。 | 小牧山での整備等が進み、景観阻害要因が取り除かれること、また、整備等により小牧山の認知度が一層上ることにより指標の値の改善が見込まれるが、それに加え小牧山周辺における電線類地中化の推進など、関係課と協力しながら、小牧山の魅力向上に努める。 また、平成29年度に一部見直しを行った小牧市サイン計画等に基づき、新図書館や(仮称)こども未来館の整備に併せ、平成23年度以降休止しているサインの設置の再開を検討する。 | |
| | | 目指す方向性 |  | | | | | | | |